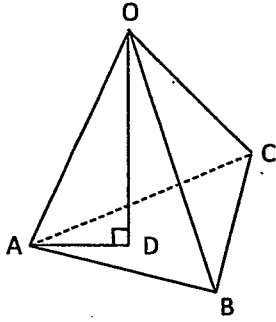


1/4

1

(1)



(i)

$\cos \angle BAC = \frac{1}{3}$  より,

$$\sin \angle BAC = \sqrt{1 - \left(\frac{1}{3}\right)^2} = \frac{2\sqrt{2}}{3}.$$

よって、 $\triangle ABC$  の面積を  $S$  とすると、

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} AB \cdot AC \cdot \sin \angle BAC \\ &= \frac{1}{2} \cdot 3 \cdot 5 \cdot \frac{2\sqrt{2}}{3} \\ &= \boxed{5\sqrt{2}} \text{ ア.} \end{aligned}$$

次に、 $\triangle ABC$  で余弦定理を用いて、

$$\begin{aligned} BC^2 &= AB^2 + AC^2 - 2AB \cdot AC \cdot \cos \angle BAC \\ &= 3^2 + 5^2 - 2 \cdot 3 \cdot 5 \cdot \frac{1}{3} \\ &= 24. \end{aligned}$$

$BC > 0$  より、

$$BC = 2\sqrt{6}.$$

$\triangle ABC$  の外接円の半径を  $R$  とおくと、 $\triangle ABC$  で正弦定理を用いて、

$$\begin{aligned} 2R &= \frac{BC}{\sin \angle BAC} \\ &= \frac{2\sqrt{6}}{\frac{2\sqrt{2}}{3}} \\ &= 3\sqrt{3}. \end{aligned}$$

よって、 $\triangle ABC$  の外接円の直径は、

$$\boxed{3\sqrt{3}} \text{ イ.}$$

(ii)

$O$  から平面  $ABC$  に下した垂線の足を  $H$  とする。

$OA=OB=OC$  より、

$$\triangle OAH \cong \triangle OBH \cong \triangle OCH.$$

ゆえに、

$$AH = BH = CH.$$

したがって、点  $H$  は  $\triangle ABC$  の外心であるから点  $H$  は点  $D$  に一致する。

よって、 $\triangle OAD$  で三平方の定理を用いて、

$$\begin{aligned} OD &= \sqrt{OA^2 - AD^2} \\ &= \sqrt{3^2 - R^2} \\ &= \sqrt{9 - \frac{27}{4}} \\ &= \boxed{\frac{3}{2}} \text{ ウ.} \end{aligned}$$

さらに、四面体  $OABC$  の体積を  $V$  とすると、

$$\begin{aligned} V &= \frac{1}{3} S \cdot OD \\ &= \frac{1}{3} \cdot 5\sqrt{2} \cdot \frac{3}{2} \\ &= \boxed{\frac{5\sqrt{2}}{2}} \text{ エ.} \end{aligned}$$

1

(2)

6枚のカードが入った袋から同時に3枚のカードを取り出す方法は、

$${}_6C_3 = 20(\text{通り}).$$

(i)

$X = 0$ となるのは取り出した3枚のカードが、

$\boxed{1}, \boxed{1}, \boxed{1}$

の1通りであるから、

$$P(X = 0) = \frac{1}{20} \text{才}.$$

(ii)

$X = 2$ となるのは取り出した3枚のカードが、

$\boxed{1}, \boxed{1}, \boxed{3}$

または、

$\boxed{1}, \boxed{2}, \boxed{3}$

の2つの場合があるから、

$$\begin{aligned} P(X = 2) &= \frac{{}_3C_2}{20} + \frac{3 \cdot 2}{20} \\ &= \frac{9}{20} \text{カ}. \end{aligned}$$

(iii)

$X$ のとり得る値は0, 1, 2であるから、

$$\begin{aligned} P(X = 1) &= 1 - \left( \frac{1}{20} + \frac{9}{20} \right) \\ &= \frac{10}{20}. \end{aligned}$$

また、 $X = 1$ かつ $\boxed{1}$ のカードを取り出すのは、取り出した3枚のカードが、

$\boxed{1}, \boxed{1}, \boxed{2}$

または、

$\boxed{1}, \boxed{2}, \boxed{2}$

の2つの場合があるから、その確率は、

$$\frac{{}_3C_2 \cdot 2}{20} + \frac{3}{20} = \frac{9}{20}.$$

よって、求める確率は、

$$\frac{\frac{9}{20}}{\frac{10}{20}} = \frac{9}{10} \text{キ}.$$

3/4

2

(1)

$$x^3 - (a-3)x^2 - (2a-1)x + 3a + 3 = 0 \dots \textcircled{1}$$

(i)

①より,

$$-(x^2 + 2x - 3)a + x^3 + 3x^2 + x + 3 = 0.$$

$$-(x+3)(x-1)a + (x+3)(x^2+1) = 0.$$

これを $a$ の恒等式と考えると,

$$\begin{cases} -(x+3)(x-1) = 0, \\ (x+3)(x^2+1) = 0. \end{cases}$$

したがって,

$$x = -3.$$

よって, ①は $a$ の値にかかわらず $x = \boxed{-3}$ アを解にもつ.

さらに,

$$\textcircled{1} \text{の左辺} = (x+3)(x^2 - ax + a + 1)$$

より, ①の左辺を $x+3$ で割ったときの商は,

$$\boxed{x^2 - ax + a + 1}$$
イ.

(ii)

①が虚数解 $\alpha, \beta$ をもつとき,

$$x^2 - ax + a + 1 = 0 \dots \textcircled{2}$$

が, 異なる2つの虚数解をもつから, ②の判別式を $D$ とすると,  $D < 0$ .

$$D = a^2 - 4(a+1) = a^2 - 4a - 4$$

より,

$$a^2 - 4a - 4 < 0.$$

よって,

$$\boxed{2 - 2\sqrt{2} < a < 2 + 2\sqrt{2}}$$
ウ.  $\dots \textcircled{3}$

このとき, ②の解と係数の関係より,

$$\alpha + \beta = a, \alpha\beta = a + 1$$

であるから,

$$\alpha^2 + \beta^2 = (\alpha + \beta)^2 - 2\alpha\beta$$

$$= a^2 - 2(a+1)$$

$$= (a-1)^2 - 3.$$

よって, ③より,  $\alpha^2 + \beta^2$ の最小値は $a = 1$ のとき,

$$\boxed{-3}$$
エ.

(2)

(i)

等差数列 $\{a_n\}$ の公差を $d$ とすると,

$$2a_2 + a_4 = 6$$

より,

$$2(-3+d) - 3 + 3d = 6.$$

$$d = 3.$$

よって,

$$a_n = -3 + 3(n-1) = \boxed{3n-6}$$
オ.

次に,  $3m-6$  ( $m=1, 2, 3, \dots$ )と表される数のうち, 一の位が5, すなわち

$$10l+5 \quad (l \text{は整数})$$

とも表される数を考える.

このとき,

$$3m - 10l = 11. \dots \textcircled{1}$$

また,

$$3 \cdot (-3) - 10 \cdot (-2) = 11. \dots \textcircled{2}$$

①-②より,

$$3(m+3) = 10(l+2).$$

3と10は互いに素であるから, 整数 $n$ を用いて,

$$m+3 = 10n$$

すなわち,

$$m = 10n - 3$$

と表せる.

$m=1, 2, 3, \dots$ より, 対応する $n$ の値も,

$$n=1, 2, 3, \dots$$

となる. 以上より,

$$b_n = 3(10n-3) - 6 = \boxed{30n-15}$$
カ.

(ii)

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^{20} b_{2k} &= \sum_{k=1}^{20} (60k - 15) \\ &= \frac{20}{2} (45 + 1185) \\ &= \boxed{12300}$$
キ.

3

$$f(x) = x(|x| - 1).$$

(1)  $x \geq 0$  において,

$$\begin{aligned} f(x) &= x(x-1) \\ &= x^2 - x \\ &= \left(x - \frac{1}{2}\right)^2 - \frac{1}{4}. \end{aligned}$$

よって,  $f(x)$  は,

$$x = \frac{1}{2} \text{ のとき最小値 } -\frac{1}{4}$$

をとる.

$x \leq 0$  において,

$$\begin{aligned} f(x) &= x(-x-1) \\ &= -x^2 - x \\ &= -\left(x + \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{1}{4}. \end{aligned}$$

よって,  $f(x)$  は,

$$x = -\frac{1}{2} \text{ のとき最大値 } \frac{1}{4}$$

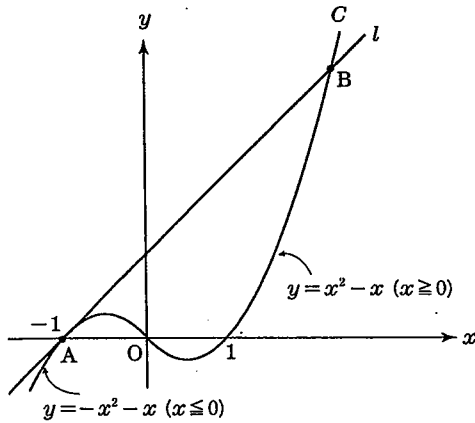
をとる.

以上より,

$$m = -\frac{1}{4}, M = \frac{1}{4}. \dots (\text{答})$$

$$(2) f(x) = \begin{cases} x^2 - x & (x \geq 0), \\ -x^2 - x & (x \leq 0) \end{cases}$$

であるから, グラフは次のようになる.



$x \leq 0$  において,

$$f'(x) = -2x - 1.$$

よって, 曲線  $C$  上の点  $A(-1, f(-1))$  における接線  $l$  の方程式は,

$$y - f(-1) = f'(-1)(x + 1)$$

すなわち,

$$y = x + 1. \dots (\text{答})$$

また,  $y = x^2 - x$  と  $y = x + 1$  の2式より  $y$  を消去すると,

$$x^2 - x = x + 1$$

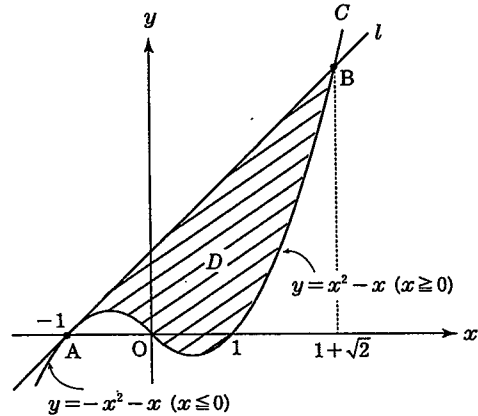
すなわち,

$$x^2 - 2x - 1 = 0.$$

この2解のうち,  $x \geq 0$  を満たすものが点  $B$  の  $x$  座標と一致するので,

$$x = 1 + \sqrt{2}. \dots (\text{答})$$

(3)  $D$  は次図の斜線部分である.



したがって,

$$\begin{aligned} S &= \int_{-1}^0 \{(x+1) - (-x^2-x)\} dx \\ &= \int_{-1}^0 (x+1)^2 dx \\ &= \left[\frac{1}{3}(x+1)^3\right]_{-1}^0 \\ &= \frac{1}{3}. \dots (\text{答}) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} T &= \int_0^{1+\sqrt{2}} \{(x+1) - (x^2-x)\} dx \\ &= \int_0^{1+\sqrt{2}} \{-(x-1)^2 + 2\} dx \\ &= \left[-\frac{1}{3}(x-1)^3 + 2x\right]_0^{1+\sqrt{2}} \\ &= -\frac{1}{3}\{(\sqrt{2})^3 - (-1)^3\} + 2(1+\sqrt{2}) \\ &= \frac{5+4\sqrt{2}}{3}. \dots (\text{答}) \end{aligned}$$